

Dream Plan

令和4年度ドリームプラン

「成長期に適した制服の研究」

家政学部服飾美術学科 1年
A.H.

私はこのドリームプランの奨学金を利用し、「成長期に適した制服」を研究しました。この研究をしようと思ったきっかけは、私自身高校時代に肩部分の動きが妨げられた制服により、血流が悪くなり低体温症や貧血、過敏性胃腸炎などの病気に悩まされたからです。これからも制服着用の文化は続いていき、社会人になってもスーツを着用していくと予想できるので、より多くの人々が健康的にそして快適に毎日を送れるようなブレザーを作りたいと思い研究をしようと思いました。

私の学校の制服は、セーラーブレザーというセーラー服とブレザーが合体した制服だったためこの肩部分の動きを解消できれば、どちらの制服でもスーツのジャケットでも応用できると考えました。ブレザーのようなジャケット型の服では、前を開けることで腕の可動域を広げることができますが、セーラー服のように前を常に閉じた形の服では簡単に可動域を広げるのが難しいため、元の形から改良していく必要があると考えました。

研究を始めるにあたり、通っていた高校の先生に制服のコンセプトやこだわったところなどを伺いましたが、特に回答をいただけなかったため、あまり形は変えず、肩部分をより動きやすく改良していくという方法を取る事にしました。

まず初めに、リハビリテーション学科の米津先生、平田先生の協力のもと私が高校時に着用していた制服がどれだけ体の動きを妨げているかを測る実験方法について考えました。1回目実際に当時着用していた制服を着用し、その下に全身の動きをパソコン上で計測する薄いスーツを着用し、全身の動きを測定しました。しかし、この方法では測定中にスーツがずれてしまったり、両腕を上げる動きの時に制服の肩パッドも上がってしまい正確な測定を行うことが難しいことが分かりました。そのほかにカメラで撮影し全身の動きを測定するという方法も考えましたが、肩部分の動きは測定できませんでした。その結果、肩と二の腕に肩の可動域を測る機械を取り付け実際に着用し計測するという方法を取る事にしました。この時に、腕を真横に上げる動き、前に上げる動き、後ろにまっすぐ上げる動きの3つの動きで肩の可動域を測定しました。(実験内容は添付した写真のとおり)



研究過程のため、詳細の報告は控えさせていただきますが、測定結果をもとに、改良方法を考え、試作品を作製、可動域の測定、検証、改良と研究を継続しています。

今後は、平田先生と米津先生、服飾美術学科の潮田先生と沢尾先生のご協力のもと来年度の学内の教員が行うプロジェクト研究に申請をすることができました。この申請が通った場合、3年間大学のプロジェクト研究として行なっていくことができる予定です。

これが今後の展望です。

この研究が終了した際は、従来の制服による体調不良に悩まされる学生を減らし、健康かつ快適に学生生活を楽しめるように完成した制服を提供していきたいです。